

連載：原点

## 試行錯誤

薬園台高等学校 寺迫 和也

私は中学時代、よく友人に数学を教えていました。そこで教えることの楽しさを感じ、教員という職業をうっすらと意識していました。そして、高校時代の数学の先生と出会い、高校の数学教員になることを決めました。この人になら何を聞いても大丈夫だという圧倒的な専門性と、楽しい授業に惹きつけられました。また、進路に関する知識も豊富で、親身になって進路指導していただきました。そういった先生の姿を見て、教員になりたいと思い、相談したところ、笑顔で背中を押してくださって、私は教員を目指すことを決めました。

赴任先の連絡をいただいたとき、今まで千葉県には縁もゆかりも無かった私は、薬園台高校はどんな学校なのだろうと期待と不安の中、学校のことを調べました。そこで、進学校であることが分かり、講師経験のない自分にとって、生徒のレベルに合った授業ができるのかというプレッシャーを感じました。同時に、自分の専門性をより高めていきたいという向上心も湧いてきました。

一学期を振り返ってみると、授業が終わり、教科室に戻るたびに自分の中で反省点がいくつも浮かんできて悩んだ日々でした。しかし、親切な先生方に恵まれ、数学科はとでも相談しやすい環境で、たくさんのアドバイスをいただきました。生徒からも、授業が終わった後に、「演習を増やして欲しい!」、「問題集のノートはこまめに集めて欲しい!」など素直な意見ももらって、少しずつ吸収して授業改善を行いました。放課後に教室を借りて板書の練習をしていたのですが、生徒に見られていたようで、期末考査のときに実施した授業アンケートで「板書がどんどん見やすくなっている」と感想をもらって嬉しくなりました。

今は、授業のペースを保ちつつも、淡々とした授業にならないようにするにはどうしたらいいのか、授業スタイルを模索しています。「三角関数のグラフ」ではパソコンのグラフ作成ソフトを使って三角関数のグラフをプロジェクターで示したり、「式と証明」ではグループごとに考え方をまとめて発表する活動を取り入れたりしています。ただ、グループ活動を取り入れた授業は上手いいかないことも多く、「楽しいけど自分で問題を解く力がついたかどうかは分らない」という意見もありました。進学校ということもあり、一人で集中して授業に臨みたいという生徒も多く、どうすれば主体的で対話的な授業になるのか試行錯誤しながら教材研究を行っており、毎日がとても充実しています。

これからも、楽しい数学の授業を目指して、生徒とともに成長できるよう日々研鑽していきます。

連載：原点

## 魅力ある授業作りのために

県立柏高等学校 森 光彬

私が教職を志した原点は、中学時代にあります。友人に数学の質問をされたとき、わかってもらえるように丁寧に答えたところ、「なるほど、わかった！教えるの上手だね。わかりやすい」と褒められました。このとき、人に教える楽しさや素晴らしさを実感し、将来先生になってたくさんの子どもに勉強を教えたいと思いました。それから大学、大学院で数学を学び続けると同時に、塾講師のアルバイトや教育実習などで子どもに数学を教える経験を積んできました。その中で、「教員はただ教えることが上手なだけではいけない。子どもの学習意欲を高めなくてはならない」と考えるようになりました。教員の説明がいくらわかりやすくて、生徒が「数学って面白い。もっと知りたい！」と主体的に勉強するようにならないと、生徒は成長しないということを痛感したのです。実際、自分がここまで数学を学び続けられたのも、学生時代に数学の魅力が授業の中で伝えてくださった先生方のおかげだと、今思います。

4月から働き始めて約5ヶ月が経ち、1学期の授業を振り返ってみると、授業を進めることに精一杯で、数学の魅力が十分に伝えられていないなど感じています。授業の進め方や生徒の実態がわかってきた今、2学期は生徒が意欲的に数学を学習できる授業作りに励もうと思います。具体的には次の(1)~(3)を意識して授業を進めます。

(1) 自分自身が楽しそうに数学の授業を行う。

私が高校のときの生物の先生は、授業のあらゆる場面で生物の魅力について楽しそうに語っていて、学級全体が生物の授業を楽しみにしていた記憶があります。私も学生時代、数学が好きで勉強してきたので、数学の魅力を少しでも多く生徒に伝えたいです。

(2) 生徒が主体的に参加できる活動を取り入れる。

数学は1つの問いに対して様々な考え方ができる学問です。生徒同士で考えを共有し吸収できるような環境作りをすることで、学習意欲の向上を図りたいと思います。

(3) 単元ごとのつながりや数学的背景を紹介し、関心を持たせる。

私が今まで学んできた専門的知識を十分に活用することを目指します。数学を深く理解するためには、単元ごとのつながりや、問題に隠されている背景を理解することが大切だと思います。教科書だけでは見えない部分を紹介し、体系的な理解ができるような授業を展開したいと思います。

以上のことに意識を置きながら、2学期以降向上心を持って、自分の理想とする教員像に少しでも近づけるように頑張っていこうと思っています。

連載：原点

## 生徒の力

姉崎高等学校 戸張 誠也

大学4年生になり、母校である中学校で教育実習を行うこととなった。当時の私は、教員採用試験を控えていたこともあって、実習と試験の不安で精神的に手一杯だった。

そして、教育実習が始まった。実習に対する不安の中で、一番に恐れていたのが「教員に向いていない」と実感してしまうかもしれないということだった。高校生の時から教員を目指していたのでなおさらだったかもしれない。それもあり、毎日粉骨砕身で実習に臨んだ。なにもかもが初めてで、とまどいながらも先輩教員の方々に支えていただき、実習は順調に終わりへと近づいていった。このとき、教員という仕事の素晴らしさや楽しさを知ったと同時に、忙しさや辛さも知った。もし自分が教員になれたとしても、忙しさの中でやっていけるのだろうか…と新たな不安が生じた。

実習最終日、授業終了後に私はクラスのみんなに手を引かれ、音楽室まで連れて行かれた。何をするのかと思えば、クラスのみんなが「3月9日」の歌詞を少しアレンジし、私のために歌ってくれたのだ。たった3週間の出来事だったが、生徒の歌っている姿を見ていると、一人一人との思い出がどんどん蘇ってきて、思わず涙がこぼれた。辛いこともあったが、この一瞬の出来事で全てが報われた気がした。歌が終わり、色紙や花束、手紙を貰い無事に教育実習を終えることができた。帰宅して、貰った色紙や手紙を見ていたとき、ある生徒の手紙に「先生を見て、先生になりたいと思いました」と書いてあった。人生でこれほど嬉しかったことはなかったかもしれない。どんなに忙しくても、やればやった分だけ自分に返ってくることを知り、新たに生じた不安も払拭できた。また、別の生徒からの手紙には「テスト勉強、僕はすごい頑張ったので先生も先生になるための試験、頑張ってくださいね。そして、今度は僕たちの先生になってください」と書いてあった。先ほどと同様にこの時ほど、教員になりたいと強く願った日もないだろう。教員採用試験当日、実習先の生徒から貰ったミサンガをこっそり足につけ、私は試験に臨んだ。知り合いもないあの緊張と不安が渦巻く空間の中で、ずっと私の心を落ち着かせてくれたのは生徒からのあの言葉だった。教員となった今でも、あの言葉はずっと私の励みとなっている。

実際に教員となって、立場や責任、仕事内容、環境、全てが教育実習の時とは比にならない程重い。だが、本質は変わらないと思う。どんなに辛くても、どんなに苦しくても、頑張れば頑張った分だけ自分に返ってくることを、あのとき生徒が私に教えてくれた。これからの教員人生で様々な壁にぶつかると思うが、この経験を糧にそれらを乗り越え、自分にしか、そして初任者にしかできないことを、粉骨砕身し、頑張り続ける決意である。

連載：原点

## 初任者として

沼南高柳高等学校 浅井 智美

私は中学・高校時代、先生方の生徒達への親身な姿を間近に見て、「教師」という職業に憧れるようになりました。その後、教育実習時に抱いた「生徒のよりよい人生・進路の為に尽力したい」「様々な家庭環境の中において複雑な悩みを持つ生徒を支えたい」という思いから教員を強く志望するようになりました。

4月から本校に着任して、早半年が過ぎようとしています。最初は右も左もわからず、教員とはなんと仕事の幅が広いのだろうと愕然としていましたが、先生方から教科指導や生徒指導等のご指導を頂き、段々と慣れてまいりました。本当に感謝しております。

本校は1クラス40名で構成されており、数学Iの授業は習熟度別に30名と10名に分けて行っています。30名のクラスは比較的数学に苦手意識を持っておらず、授業中の発問に対して積極的に発言する生徒が多い一方、10名のクラスは小・中学校の内容から復習する必要があります。高等学校の履修内容についていくのが精一杯という状況です。学校全体としては大変落ち着いており、集中して授業を受けられる環境です。まだまだ学力面で難しさがありますが、少しずつ生徒の学力も上がりつつあり、どの生徒も授業を聞く態度は素晴らしいと感じています。

このような実態の中、1学期の授業では「なぜ分数の計算ができないのか」「なぜ正負の計算で間違えてしまうのか」と生徒の理解度がわからず、焦り、戸惑うことばかりでした。ノートを書くことが苦手な生徒がいる中、生徒のレベルに即した授業ができず、生徒が授業についていけないという経験をし、何度も頭を悩ませました。

しかし先輩の先生方に励まされ、ご指導を頂いたことで自身を省みることができました。「授業でうまくいくことはないし、うまくいったと感じたところで教員としての成長は止まる」というお話を頂き、授業でうまくいかないことがあっても次の授業はもっと良いものにしようという前向きに授業研究に取り組めるようになりました。また、学力に自信がなく、数学が苦手な「勉強してもどうせ伸びない」と諦めていても、必死に授業に取り組んでいる生徒達の姿を見ると、心のどこかで苦手意識を克服したいと思っている生徒がほとんどだということに気付かされました。その思いに寄り添い励ますことがどれほど大切かということ学ぶ毎日です。

未熟ではありますが、初心を忘れず、今自分にできることに精一杯取り組みながら、沼南高柳での日々を学びの多いものとしていきたいと思っております。また、数学への興味を引き出し、進学志望の生徒も支えられるような教材研究や自身の数学の学びを深めるとともに、対話を大切にした学びの形を模索していきたいと思っております。